

大分県立竹田高等学校

関東同窓会 第22回総会・懇親会

とき 平成20年6月28日(土)

ところ アルカディア市ヶ谷

当番幹事 衛 藤 淳 (昭52年卒)



第22回総会・懇親会報告

第22回竹田高校・関東同窓会の総会・懇親会が6月28日、東京千代田区のアルカディア市ヶ谷にて盛大に開催された。

松良修二幹事長による司会で総会がスタートした。

用正靖彦会長よりこの1年間の活動や会計について報告があった。昨年は竹田高校創立110周年という節目で関東同窓会も募金活動を行い母校に寄付ができ、冷暖房の導入に役立てられたことが紹介された。また昨年の修学旅行において、首都圏の大学や企業訪問の企画が実行され、関東同窓会のメンバーが引率を務めたことが報告された。この日の総会・懇親会の参加者数は242名で過去最高を記録した。

続いてご来賓の方々よりご挨拶を頂戴した。上村俊一校長(41年卒)が登壇し、創立110周年記念として関東同窓会より寄付が寄せられたことに謝意が述べられた。さらに修学旅行では、大学企

大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第36号

発行者・会長 用正 靖彦
編集者・委員長 田部 修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市区泉和泉町4384-2
電話 045-803-5677

印刷・データクラフト㈱

業の訪問では、先生方だけでは生徒を引率しきれず、関東同窓会メンバーのおかげで実行できたことに感謝。生徒も先輩諸氏が首都圏で頑張っている姿に触れて強く触発された様子だったようだ。竹田高校のこのユニークな修学旅行は大分県下でも他校に伝わり、さっそく採用した高校もあるそうです。なお、竹田高校の本年の新生入生は184人で3学年の合計は581人とのこと。

次に後藤宗昭様(竹高同窓会会長)が登壇し、創立110周年という大きな節目に際して記念式典の開催、記念誌の編纂など多岐にわたる活動ができたことが報告され、寄付やご協力いただいた関係者に謝意が述べられた。

牧 剛尔竹田市長からは故郷・竹田の近況が伝えられ、地域インフラ整備として光プロードバンド網構築に取り組んでいる様子が紹介された。さらに「ふるさと竹田応援隊」が発足し、竹田を応援する事業がスタートしたことが案内され、関東同窓会の協力を強く要望された。来年21年からはNHKによるスペシャル大河ドラマ「坂

の上の雲」が放送開始となるが、竹田が生んだ武人・広瀬武夫が登場する。竹田にとって観光アピールのまたとない機会でもあり、関東同窓会としてもふるさと竹田応援隊への参加を呼び掛けられた。

その後、古澤俊孝様(竹高PTA会長)、水戸博文様(県東京事務所所長)、芹川光宏様(高友会会長)、立川貴士様(東京豊工会長)、青木行雄様(中津南幹事長)、岡本豊様(三重農幹事長)、糸永健太郎様(大分合同新聞部長)、都留廣之様(国東高副会長)などのご来賓が紹介された。

総会も無事終了、懇親会となった。ここで司会が交替、当番幹事が登場。何と！学生服とあのマントの女子制服姿ではないか？志賀卓史君(52年卒)と志賀君の計略にはまった鈴木敦子さん(旧姓・田部、同52年卒)であった。二人とも高校時代そのままである。企画するだけなら誰でも考えるが、実行したのはエライ!!

乾杯のご発声は昨年、大分県人会会長に就任された辻亨様(竹高32年卒)。関東同窓会をはじめ、様々な活動にご指導を頂ける機会も増えることだろう。

さて、会場では、正面のスクリーンに突然映像が流れ始めた。今年の箱根駅伝では竹田高校の名が2度も流れ同窓会メンバーが沸きに沸いた。勇姿は田部貴之君(平成16年卒、帝京大学卒)と渡部政彦君(平成17年卒、中央学院大学4年)の二人。渡部君は6区の山下りでの前のチームを抜いて喝采を浴び、田部君は帝京大チームの主将として10区アンカーを務め、東京大手町のゴール・テープを切る大

活躍を見せた。

ここで、サブライズ発声ー！なんと、渡部政彦君が開場に姿を現した。渡部君は現4年生で来年も挑戦すること。同窓会も応援を誓ったのは言うまでもない。

その時、その時

「城原神楽」見参!!

その瞬間、カメラ・モードにした携帯電話を手にした人々がどつと中央に押し寄せた。

東京のと真ん中に、我らがあの城原神楽の太鼓の音が響き渡ったのだ。目に涙を浮かべている人さえいた。無理もない、人によっては故郷を後にして半世紀ぶりに見たという人もいた。

一瞬にして、故郷のあのお祭りの空気、久住連山にかすむ薄暮に浮かび上がる神楽舞台、そして夜店、爆竹の火薬の匂いまでがまざまざと蘇ってきた!

さて、いよいよ城原神楽である。城原から上京したのは楽長・志水豊年さん率いる城原神楽団の7名。演じるは「大蛇退治」。大久保忠士さんの太鼓が実にいい!! 40分間の熱演に、まるで竹田にいるような錯覚を覚えた。なお、この城原神楽招聘は、今年の当番幹事42年卒の格別の尽力があつて実現したものであることを特に銘記しておきたい。

最後は恒例の校歌斉唱とストーリームで幕を閉じたが、まさに「竹高、我等眉上がる!」だった。さあ、明日から、またそれぞれの人生を舞台に、眉上げていこう!!



用正会長より一言ご挨拶

関東同窓会



抱負を語る上村校長先生



城原神楽見参



乾杯のご発声 丸紅辻相談役

写真特集



牧竹田市長の祝辞 “ふる里竹田をよろしく”



“そろそろ料理かな” ツイツイガヤガヤ



司会当番幹事 “内心恥しい”

平成十九年度会務・会計報告

平成二十年総会に

おける用正会長挨拶

皆さんこんにちは。

会員の皆様には常日頃から、同窓会の運営にあたり格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

本日、二十二回目の総会・懇親会を開催いたしましたところ、二五〇名強の方々にご出席頂き、盛大な会となりましたこと誠に有難うございます。

本席には母校より竹高OBであります上村俊一校長はじめ後藤宗昭本校同窓会長、堀幸子副会長、古澤俊孝PTA会長、並びに牧剛竹田市長、甲斐正章竹田商工会議所会頭が遠路ご足労賜り厚くお礼申し上げます。また地元からは水戸博文大分県東京事務所長、辻亨在京大分県人会会長(竹高OB)、青木行雄同副会長(中津南高OB)、芦川光宏東京・大分高友会会長、糸永健太郎大分合同新聞社部長はじめ大分工業高校、国東高校、三重農業高校、各校の在京同窓会役員のご臨席を頂いております。

こと、深く感謝致しております。

本年は、昭和四十二年卒、昭和五十二年卒の皆さんが当番幹事として企画、立案、そして周到な準備をされ、特にイベントには当番幹事のたつての要望で「重要無形文化財の城原神楽」を楽しんで頂くことになりました。

一年間にわたり企画、運営の労を執つて下さいました当番幹事の皆さんとそれをサポートした役員の皆さんに感謝いたします。

私共同窓会の趣旨は、「とき」は異なっても同じ学び舎で過ごしたのも同士が一堂に会し親睦を深めることと、母校の発展にいささかなりとも貢献することにあると思います。

かかる意味合いからも、昨年12月の母校の修学旅行での「大学訪問」「企業訪問」で会員有志による引率支援ができましたことは、少しはお役にたてたのではないかと思っております。

最後になりましたが、ご来賓の皆様のご出席に感謝申し上げます、会員の皆様のご健康を祈願してご挨拶と致します。

平成十九年度

会務・会計報告

会務報告

●平成十九年六月九日(土)
第二十一回総会・懇親会
於 アルカディア市ヶ谷 出席二百二名

総会・平成十八年度会務・会計報告、監査報告及び新役員紹介
懇親会・当番幹事 S41卒、S51卒が担当
アトラクションは和太鼓の実演、団子汁とやせ馬が振舞われ、盛況裡に終了

●平成十九年七月二十八日(金)
総会・懇親会の反省会
於 アルカディア市ヶ谷

出席30名(役員、当番幹事、次期当番幹事)
●平成十九年八月二十八日(火)
東京大分高友会研修会出席
・事例紹介・東京十王同窓会(梓葉高校)

●平成十九年十月五日(金)
竹高創立110周年記念式典出席
・関東同窓会からの募金
4,593,000円(341名)
(母校の冷暖房設備新設、2年生10名の海外研修等支援)

●平成十九年十月六日(土)
定例役員会
於 日本バーカライジング 出席10名
・秋の定例幹事会日程、議題について

●平成十九年十一月十三日(火)
秋の定例幹事会
於 アルカディア市ヶ谷 出席34名

●平成十九年十二月十三日(火)
春の定例幹事会
於 アルカディア市ヶ谷 出席32名
・平成19年度決算(概算)について
・第22回総会・懇親会の実行プランの最終検討、承認
・各委員会提案事項について
●平成二十年三月三十日(日)
お花見(新宿御苑)有志16名

●平成十九年十二月五日(水、六日(木)
竹高2年生東京修学旅行(大学・企業訪問)支援
有志10名

●平成二十年二月二十三日(土)
定例役員会
於 大分県人会東京事務所出席8名
・春の定例幹事会議題、日程について

●平成二十年三月五日(水)
東京大分高友会研修会出席
・事例紹介：中津地区合同在京高校同窓会

●平成二十年三月二十二日(土)
春の定例幹事会
於 アルカディア市ヶ谷

●平成二十年三月三十日(日)
お花見(新宿御苑)有志16名

会計報告

収支計算報告書

(平 19.4.1 より平 20.3.31 まで)

| 1. 収 入 | | 金額 |
|------------|------|------------|
| ① 維持会費 | 会費 | 1,803,000円 |
| ② 雑総募受 | 会費 | 1,520,000円 |
| ③ 雑総募受 | 会費 | 100,000円 |
| ④ 雑総募受 | 会費 | 22,000円 |
| ⑤ 雑総募受 | 会費 | 1,125円 |
| | 計 | 3,446,125円 |
| | 前期繰越 | 1,215,732円 |
| | 合計 | 4,661,857円 |
| 2. 支 出 | | 金額 |
| ① 総会費 | 会費 | 1,695,726円 |
| ② 総会費 | 会費 | 655,391円 |
| ③ 総会費 | 会費 | 329,736円 |
| ④ 総会費 | 会費 | 28,382円 |
| ⑤ 総会費 | 会費 | 6,300円 |
| ⑥ 総会費 | 会費 | 19,950円 |
| ⑦ 総会費 | 会費 | 315,519円 |
| | 計 | 3,051,004円 |
| | 次期繰越 | 1,610,853円 |
| | 合計 | 4,661,857円 |
| 3. 次期繰越の内訳 | | 金額 |
| ① 現預金 | | 13,570円 |
| ② 預金 | | 1,597,283円 |
| | 計 | 1,610,853円 |

上記の通り報告します。
平成 20 年 4 月 7 日

幹事長 松良 修二

監査報告書

監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。
平成 20 年 4 月 13 日

監事 坂本 勇
監事 桃溪謙次郎

「竹高生の成長の日々」

竹田高等学校 校長
上村 俊一



6月の関東同窓会総会にお招きいただき本当にありがとうございます。関東で活躍される多くの同窓の皆様、竹田高校の結束力と底力を感じさせられ、勇気を与えていただいた1日となりました。

竹田高校出身の校長として、母校に思いを馳せる同窓の皆様への期待に添えるよう、生徒及び全教職員が一元となって今後も一層努力して参りたいと考えています。

さて、竹田高校は昨年110周年の記念行事を盛大に挙行することが出来ました。これもひとえに皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。今年7月18日に1学期終業式を行い、それか

ら8月1日まで10日間の補習、3年生はその後5日間の特別指導を実施、そして8月18日には2学期の始業式を迎えるという日程で、本当に勉強漬けの夏休みでしたが、近くに塾もなく学校だけが頼りの生徒達は、記念事業の一環であるエアコンの設置により、猛暑に負けることなく勉学に取り組む、頑張ることが出来ました。

また、記念事業のもう一つの柱である海外派遣事業により、8月1日から8日まで10人の生徒がニュージーランドに派遣され、グローバルな視野を育成し、国際感覚を身に付けることが出来ました。私も団長兼引率者として同行しましたが、出発時の期待と不安の入り交じった生徒の顔が、ファームステイで現地の家庭に入り体験を重ね、現地の高校との学校間交流をする中で、次第に自信と喜びに溢れて来て、高校生が短期間でこんなに大きく変われるということに感動させられました。

派遣生徒の中には留学を意識する者も現れ、この事業を行うことの意義を実感することが出来ました。

今年の臥牛祭(文化祭・体育大会)は9月10日～12日に開催されました。今回のテーマは「きせき」です。軌跡、奇跡、貴石、等を含めた言葉です。これまで歩んできた道、これから足跡を残す道、そこに立つ自分は磨けば輝く宝石の原石であり、様々な業績を残し奇跡を起こす存在でありたいという気持ちが入り込められています。ルームメイト全員で協力し完成させたクラス展示、演劇やバンド演奏のステー

ジ発表、文化部活動の発表等さまざまな催しが行われた文化祭でした。そして青春のエネルギーを爆発させ、走り・飛び・ぶつかり・舞い・感動した体育大会でした。フォークダンスでのほろ苦い思い出等が、今年もこの臥牛祭で生まれたことと思います。

ところで、今年の国民体育大会は大分県で開催され、竹田高校は山岳競技のリード及びボルダリングの会場となりました。昨年に競技施設が完成しましたが、いずれも人工壁の登坂競技でオーバーハング(90度以上の傾斜)状態の困難な壁をよじ登るもので、最適コースを見出す能力と平衡バランスそして腕力等が要求される熾烈な競技です。竹田高校の生徒も団体候補選手にエントリーされて猛練習をしてきました。10月3～5日の国体山岳競技において、練習の成果が少年女子の五十嵐純、志賀愛ベアの第3位という結果で表れました。

人知れず地道に取り組んだ努力と苦しくても諦めず最後まで粘り通す根性は、生徒の人生で大きな財産になった

と思います。同時に竹高生が大会補助員として各競技会場へ活動し、他県の選手団から「竹田高校の生徒さんは、あいさつが素晴らしいさわやかですね」と大好評でした。このように後輩達は様々な場面で活躍し、充実した高校生活を送っています。

最後に、現在竹田高校は県教委から豊肥地区の拠点校として指定され、文武両道の進学伝統校として元気で魅力ある学校づくりに一層努力してまいりますので、今後とも関東同窓会の皆様方の温かいご支援とご鞭撻を宜しくお願いいたします。



ニュージーランド派遣事業



臥牛祭当日の校門

維持会費の納入者の現況

●維持会費のご負担のお礼とお願い

*関東同窓会は、維持会員の皆様の日頃からの、深いご理解とご協力に支えられて、安定的なあゆみが続けております。まことにありがとうございます。
*未済となっておられる方々には、何かと出費ご多端の折りかとも思いますが、ご負担についてのご協力方よろしくお願ひ申し上げます。

●平成19年度年会費納入者芳名簿

(平成19・4・1〜20・3・31)「総務委員会」
お名前もれがございましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。
TEL03(58332)65331 FAX03(58332)65332

「旧制中学の部」

昭和6年度 山口 立
昭和11年度 田部 健、武藤省三
昭和15年度 小野昌宏、須藤敷二
昭和19年度 後藤忠士、服部舜次
昭和20年度 足立五郎、伊東七五八
四宮 坦、那須隆澄
堀 健一

牛島健一、大崎員雄
神田 清、吉良欣一
後藤美代子、里見菊雄
志生野温夫、高山茂美
長吉 泉、濱口鈴子
伊野弘子、甲斐智津子
金子一也、上村マサ子
工藤謙知、後藤誠一
後藤浩一、後藤桃子
津田美枝、得丸正哉
江崎和彦、篠島資裕
河野元義、工藤裕一
工藤玲子、古謝正祐
坂本 勇、佐藤毅士
佐藤映之、田宮郁子
中島文久、中村シゲ子
西美智子、堀 利亘
堀 博、益永三生
秋元幹夫、小代 孝
工藤敏暢、久保博紀
小坂第三、小島妙子
後藤忠臣、田北元良
得丸郁子、林 盛生
深田亮子、堀光 宏
松沢立雄、八木國皓
山口雄三、山田百子
吉川隆治

「旧制高女の部」

昭和8年度 久保タケ
昭和11年度 佐藤ナルミ
昭和13年度 三代照子
昭和14年度 小倉セツ、石原田鶴子
昭和16年度 廣瀬尊子
昭和20年度 寺田タツ

昭和29年度
昭和三十年
昭和三一年
昭和三二年
昭和三三年
昭和三四年
昭和三五年

「高等学校の部」

昭和24年度 安藤俊哉、白井 充
昭和25年度 田北 忠、本田仁夫
昭和26年度 阿南惟正、安藤 哲
飯倉一郎、伊藤瑛介

昭和29年度
昭和三十年
昭和三一年
昭和三二年
昭和三三年
昭和三四年
昭和三五年

昭和三十年 足立良一、阿南忠義

安藤慶子、大塚隆右
亀崎正幸、後藤善郎
斎藤昭義、坂本吉廣
佐藤清八、真田はつみ
真田政子、西 誠
西山尚子、原田謙一
堀光貞枝、丸山郁代
森 勝幸、盛 哲男
用正靖彦、吉川恵啓
阿南一成、井 英治
上田武男、内田 豪
甲斐正治、金山豊美
河野昭夫、生野 勝
高橋房枝、田爪善三
中村和子、西山恭子
阿南 暁、岡村光博
岡部由子、小代邦弘
佐藤充子、生野良友
鈴木八千代、高橋勝和
高橋 誠、高山武俊
辻 亨、利根範子
藤原保範、松良邦夫
三浦弘子、宗像五男
村尾イミ子、吉野次彦
長田美貴子、加藤典史
近藤吉明、齊藤須磨子
酒井連可、佐藤誠一郎
立川美知、土屋健児
塔尾恵美子、本田孝和
山下忠男

昭和三一年 阿南洋子、大津琴絵

昭和三二年 小澤康三、菅紀代巳
昭和三三年 桑山玖美子、後藤大林
昭和三四年 後藤恒嘉、後藤光正
昭和三五年 佐藤幸一、武内英則
津下渥子、土屋ヨシエ
根本英子、服部恭一
松良修二、水野紀代子
山本榮子、吉崎祥子
和田 剛
麻生三郎、板倉 靖
伊深佳澄子、梅田好江
衛藤俊司、大塚恵士

昭和三六年 小代文喜、小野俣次郎

昭和三七年 加治久継、川合達徳
兼島政治、酒井俊治
佐藤正典、高辻保之
津田紀子、原 孝子
平手 肇、嶺 順三
宗像鹿子、用正ツキコ
大岡房子、鍵小野章
佐々田ヤエ子、萩原 忠、
松本雅愛

昭和三八年 朝見隆子、安藤俊和

昭和三九年 白杵頼彦、大塚泰子
昭四〇年度 落合 淑、甲斐賢生
昭四一年度 木内千草、岸野聡賢
昭四二年度 工藤錦五、西山洋子
昭四三年度 廣瀬喜征、古沢橋也
昭四四年度 古庄正欣、桃溪謙次郎
昭四五年度 緒方義信、熊谷克直
昭四六年度 洪賢二郎、高辻紀代
昭四七年度 田北則夫、中野裕子
昭四八年度 古川勝俊、古庄史郎
昭四九年度 安藤 紀、堀 友朗
昭五〇年度 吉岡龍雄、吉田英明
昭五一年度 伊藤大義、大坂好美
笠川ミヤ子、志賀民主
首藤利幸、田部 厚
羽立主爾、藤田和宏
古庄幸一、堀田 大
阿南裕康、池田典幸
井手得郎、伊藤誠至
衛藤昌平、川口和夫
河野精一、工藤弘明
倉原宣善、栗田信子
古城涼子、後藤彰二
古藤猛士、坂本美穂子
佐田俊一、中神章彦
別府郁美、都 文生
山口信仁、山田房子
工藤健二、児玉幹生
斎藤悦子、佐田康子
真田正紀、柴井 洋
田部修士、野仲伊津子
姫野純二、堀 正孝
山本英次、和田和子

昭和三九年 飯田良典、小出裕子

昭四〇年度 飯田良典、小出裕子
昭四一年度 飯田良典、小出裕子
昭四二年度 飯田良典、小出裕子
昭四三年度 飯田良典、小出裕子
昭四四年度 飯田良典、小出裕子
昭四五年度 飯田良典、小出裕子
昭四六年度 飯田良典、小出裕子
昭四七年度 飯田良典、小出裕子
昭四八年度 飯田良典、小出裕子
昭四九年度 飯田良典、小出裕子
昭五〇年度 飯田良典、小出裕子
昭五一年度 飯田良典、小出裕子
昭五二年度 飯田良典、小出裕子
昭五三年度 飯田良典、小出裕子
昭五四年度 飯田良典、小出裕子
昭五五年度 飯田良典、小出裕子
昭五六年度 飯田良典、小出裕子
昭五七年度 飯田良典、小出裕子
昭五八年度 飯田良典、小出裕子
昭五九年度 飯田良典、小出裕子
昭六〇年度 飯田良典、小出裕子
昭六一年度 飯田良典、小出裕子
昭六二年度 飯田良典、小出裕子
昭六三年度 飯田良典、小出裕子

以上320名の皆様より維持会費の納入をいただきまして幹事一同心よりお礼申し上げます。

ふるさと名所紀行(2) 都会の中の竹田 「獅子・麒麟像」

日本橋の欄干「獅子・麒麟像」について

竹田高校38年卒 古庄 史郎

私の勤務先から歩いて数分のところにお江戸日本橋で有名な日本橋がある。この橋は五街道の起点であり、日本の中心でもある。

この橋に竹田との縁があることは意外と知られていない。橋の欄干に彫られた彫刻「獅子・麒麟の像」は朝地(上井田)出身の彫刻家・渡辺長男氏(1874~1952)の作品なのだ。この日本橋が作られた経緯が、渡辺長男(おさお)氏の孫、小代浩人氏の文筆「明治が生んだ運命の彫刻家兄弟・渡辺長男と朝倉文夫」の中に詳しく書かれているので、引用させていただいた。

(前略)

現在の日本橋が作られたのは、明治44年である。データによれば、欄干などの青銅は7千貫を使い、工事全体に係わった職工は、延べ1万5千人を超えたという。製作期間も発案から起算すると4年近くを費やしている。(中略)

橋を見て、誰もが興味を持つのは、橋を支えるフォルムがアーチ型になっていることと、欄干の装飾で、この装飾部分を製作したのが、渡辺長男である。

その装飾は二つからなる。「獅子」と「麒麟」である。(中略)

まず「獅子」については、長男と鋳造家の岡崎雪声(長男の義父)は、三つの案を考え、今でいう製作のトータルプロデューサーである工学博士、妻木頼黄にプレゼンをした。

一つは、純西欧風のライオン、二つ目は、徳川の高麗犬風、三つ目は、鎌倉時代の運慶作と言われる奈良の手向山神社にある高麗犬といったモチーフである。

この会議には、妻木博士以外に、東京市の橋梁課長や大蔵省の技師も参加した。議論の末、ヨーロッパのドナテルロの獅子の写真も参考にしながら、三つ目の案に落ち着いた。

「麒麟」については、当時でも参考になるものが少なくて難航した。結局、九段の靖国神社にある鈴木長吉作・青銅灯籠の腰巻に彫られたものがイメージされた。

無論灯籠そのままではなく、頭は、陳所翁の龍を参考に、火の部分は、円山応挙に由り、全体の

作法については、西洋風が意識された。麒麟には、羽根の無いのが普通であったが、ここでは、装飾物全体のバランスを考え、羽根がつけられた。ギリシャ時代の作品にも、羽根の生えた麒麟のあることが分かり、その方向を選択した。

というわけで、苦心惨澹の末、欄干の装飾のカタチが決められていった。基本的には、和風でもない洋風でもない、和洋折衷である。彫刻家として長男が起用されたことは、大正解であった。何故なら、美術学校で彫刻の勉強は、山田鬼斎による古法から入り、西洋彫塑も学んで、折衷する技術も心得ていたからである。

欄干の装飾は、このように長男らの努力や、試行錯誤を経て作られたものである。一見ノートルダム寺院の彫刻にも似た作品であるが、決して、魔法を使うように、ワン・ツィ・スリーで生まれたのではない。

日本橋は、平成11年に国の重要文化財に指定された。

(後略)

このような日本橋であるが、昭和38年首都高速道路が真上を走ることになり、排気ガスや雨水にさらされ、悲惨な状況になって久しい。しかし、今一度日本橋の景観を取り戻そうと言う動きがあると聞く。誠に喜ばしいことだ。

私は、以前、韓国ソウルに駐在したことがある。その頃、ソウル市内の環境汚染は東京を上回る酷さであったが、現大統領の李明博氏がソウル市長の時、暗渠と化した「清溪川」の上を走る高架道路を撤去した。市民の憩いの場として、「清溪川」を復活させたのだ。日本橋も高速道路が取り除かれ、青空の下で「獅子・麒麟の像」が見られるようになることを期待する。

最後に長男氏の三女の法子氏が宮中の「歌会始」に入選した作品を紹介させていただく。お題は「橋」であった。

「今日も又、父の彫りたる獅子麒麟 左右に見つ 日本橋渡る」



麒麟像



獅子像





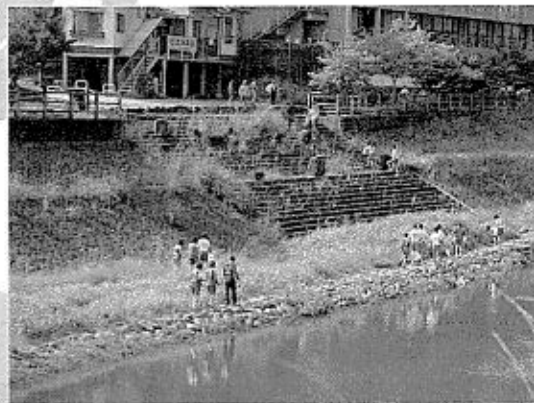
選手団集合



開会式天皇陛下のお言葉



山岳補助員によるボンダリングの準備活動



竹田市街地の清掃活動



山岳補助員によるリード競技の準備活動



山岳補助員による準備活動

大分国体写真集



ラグビー補助員の活動



クラス会・同期会・県人会

錦秋の信越同級会旅行

学年幹事 服部 恭一 (S34年卒)



34年卒同級会旅行
20.10.17-18



毎年催行の竹高十一期関東同級会旅行、今年は十月十七日、十八日の日程で十四名が参加し、妙高高原を舞台に野趣満点の露天風呂や、澄み渡る青空の下銀色に揺れるスキの波と、絶妙のコントラストで染められていく山々の気高さに感動し、歴史、文化、自然に満ち溢れた信越路(赤倉温泉、燕温泉善光寺、小布施、野尻湖、一茶の里等)の彩り輝く秋を満喫してきました。



九隣会

秋元 幹夫 (S29年卒)

当会は昭和二十九年卒六回生・九州地区在住者の会で、これに関東から九名が参加した。平成二十年五月十九日、二十日に、佐世保市「万松楼」(明治二十六年創業にて今年のが持たれた。この宿にはかつて伊藤博文も宿泊したとのことである。十八時より五階「星の館」にて懇親会、その後幹事の室にて二次会大変盛り上がる。翌二十日は、遊覧船「パールクイーン」にて九十九島遊覧、昼食後解散した。



2008.05.25

「在京大分県人会創立八〇周年記念祝賀会」を終えて

在京県人会 理事 加藤 興史 (S33年卒)

「在京大分県人会創立八〇周年記念祝賀会」が五月二十五日朝から大雨の中、約一六〇名の参加をいただき、盛大に開催されました。在京竹田高校同窓会から会員の皆様に大勢参加をいただきました。祝賀会の準備をいたしました一人として、心からお礼を申し上げます。当日市町村物産コーナーの竹田市コーナーにお目見えした長湯温泉マグナは炭酸泉を使ったミネラルウォーター「超硬水・マグナ1800」を発売した。また名水百選の竹田湧水とブレンドした「マグナ300」も発売した。日



経新聞八月十一日ご当地ニューフェイス欄に紹介されました。ふるさと応援団。として支援をお願いします。

ふるさと名所紀行(1) 詩城の旅人「石の文化」

(S 42年卒) 田部 修士

萩に残された遺産「石の文化」

(1) 岩戸橋

竹田地方に残された石仏、磨崖仏、石橋、石塔、古墳……これらは石の文化と称されて九州を代表する景観になつています。しかし河川改修や道路拡張の名のもとに、次第に消えつつあるのも事実です。

日本で最初の石造り眼鏡橋は長崎の眼鏡橋、寛永11年(1634)、明の渡来僧 如定により架けられました。長崎に始まったアーチ眼鏡橋は、参勤交代路肥後街道を経て、豊後に入っています。

竹田市内で一番古い石橋は、萩町馬場と柏原の境を流れる山崎川に架かっています。萩駅から県道695号線を南下、岩戸大橋(平成14年完成)を渡り右折、旧道を下っていくと岩戸峡谷右側に、2本の水路橋(萩柏原井路)が重なるように架かり、江戸時代からの橋が一望できます。岩戸橋は、1連石造アーチ橋で橋長28.2m、径間17.4m、溪谷から18m高さに架かり、嘉永2年(1849)に造られました。県内で5番目に古く、昭和49年3月19日に石橋としては最初に大分県の有形文化財に指定されています。

大野川流域最大の難所岩戸峡は、江戸時代、柏原村より城下竹田町に通じる唯一の道でした。しかし、断崖絶壁の深い谷が、人々の往來をはばみ、柏原村は陸の孤島とも呼ばれていました。人々は谷に、丸太を渡して土橋を架けて通行していました。しかし、台風や大雨のたびに橋は流され、農民はその修復の負担に困窮していた。

時の柏原組大庄屋垣田角次郎は、人々の苦しみを救うため石造りの橋を架けることを決心しました。村役人と相談し岡藩に架橋を申請、銀札二貫六百匁(約50匁)を借り受け工事に着手することになったのです。工事は、備前石工久米蔵と後藤松太郎と農民も総出で1年8ヶ月の歳月を費やして完成しました。陸の孤島といわれていた柏原村にも馬車の通行が可能となり、人々のくらしを激変させたのです。

石橋は文化的価値とともに、その土地になくてはならない風景となつています。石橋は、石工や住民たちの記念碑であり、日本の歴史的文化的遺産です。次世代に受け継ぐことは、今を生きる私たちに与えられた責務と考えます。



(2) 音無井路十二号分水(円形分水)

江戸時代岡藩の農業施策は、二代藩主中川久盛・三代藩主中川久清によって、大野川上中流域の大野・直入郡の良田化が図られました。正保2年(1645)緒方上井路、慶安3年(1650)緒方下井路の開削が始まり、寛文2年(1662)城原井路が完成したといわれています。

音無井路は、元禄6年(1693)に岡藩の家臣須賀勘助により藩の財政を確立するため宮坂・入田・姫岳地区などの南部地域一帯の水利開発の擲力を試みたのが始まりです。開削工事は難航を極め、なんとか九重野まで通水が可能となりましたが、暴風雨でほとんどが損壊し、勘助はその責任を負って切腹しました。

その後、明治9年(1876)岡藩士であった井上藤蔵と宮坂村の熊谷桃三郎は、勘助の意志を継ぎ、水路の復旧に奔走し、明治17年(1884)に工事着工にこぎつけた。しかし、硬い岩盤に阻まれ開削工事は遅々として進まず、工事費増大による工事中断の苦難を乗り越え、明治25年(1892)に取水口から十二号分水までの約2kmの暗渠が完成、延長工事も行われ通水するに到りました。ところが、大正時代末に、ほかの井路が大谷川上流からの取水を開始したため、音無井路の水量が不足し、水を巡って争いが絶えず、公平に分配を行うために、昭和9年(1934)にサイフォンの原理を利用した円形分水施設が造られました。

円形分水は、萩町の陽目溪谷から宇目小国線を約1km南下、トンネルを抜けると大字九重野百木に着きます。トンネル出口の左脇に東屋があり、その奥に円形分水の中央から暗渠を抜けた水が湧きあがっています。水の出る四角な穴は全部で20個あり、1着線には5個、2着線には8個、3着線には7個の割り当てがされています。

日本の地域社会は劇的に変化し、歴史的環境が次第に破壊される中、円形分水は、現役施設として活躍している文化財です。



(3) 明正井路第一拱石橋

伏流水が豊富な竹田地域は数々の湧水群をもつ水郷ですが溶結凝灰岩の深い溪谷が台地を分断し、人はもちろん、水が行く手も阻んできました。農業灌漑用水にも事欠くありさまで、人々は苦しい生活を余儀なくされ、その為、多くの水路が建設されました。

市の中心部から県道竹田・高千穂線を南下すると頭上に県道と緒方川に架かる明正井路第一拱石橋があります。橋は、6連石造アーチ型式、橋長78m橋高13m、径間10.7m、橋幅2.8m、拱矢3.3m、環厚60cmの県内最長の石橋です。

井路の開削は、二代藩主中川久昭により文久年間(1861)に始まりましたが、財政事情が逼迫し計画を断念しています。

明治42年(1906)に、耕地整理組合法に基づく補助事業の許可を受け、熊本出身の平林松造ら9名の石工で大正6年(1917)11月に工事が着手されました。谷には橋を架け、しかも水路の大部分が隧道掘削、地質が軟弱で工事は休止・再開を繰り返した。工事の目的がつかされた時、設計者・矢島義一(福島県出身)の自殺という悲惨な出来事も起こりましたが、大正13年(1924)難工事はようやく完成をみたのです。

祖母山麓から流れる緒方川の水を次倉合出で取水し、幹線延長は約48km、分派用水路の総延長は127km、灌漑面積2323ha、うち開田面積498haを拓き、県下で有数の穀倉地帯に生まれ変わりました。水路橋は17基を数え、これほど多数の石橋を用いた大灌漑施設は全国的にも珍しい近代化農業遺産です。

日本最大規模の水路橋は、6連の美しいアーチを持ち、連数・長さともに日本一の水路橋で、司馬遼太郎をして、「ローマの水路橋のようだ」と言わしめています。さらに、「岡城」と南仏プロヴァンス地方の城「レ・ポー」。入田の湧水と仏の「エビアン」、アヴィニョンとニームの間にあるローマ時代の水道橋ポン・デュ・ガールと明正井路を結びつけた松本清張の小説「詩城の旅びと」の舞台にもなっています。

(資料は竹田市教育委員会文化財課 佐伯治氏提供)



母校紹介

特別活動主任 中村 浩一先生

竹田高校は、文武両道とさわやか挨拶をモットーとする活気にあふれた学校です。本校には数々の行事がありますが、今回はその中から二つ紹介します。

九月、三日間連続で文化祭と体育大会を行う「臥牛祭」が、開催されます。臥牛祭は、平成5年の生徒総会で文化祭と体育大会の名称を臥牛祭と決定、現在は女子生徒が特に活発に活動しています。(写真を4頁に掲載)

文化祭では、創意工夫を凝らした展示や真剣かつ楽しく演じるステージ発表に「若いっいいいな」という思いを抱かれます。

学年対抗の体育大会では、各学年が一致団結して燃え上がる姿を見させてくれます。その一方で、自分の学年がゴールした後、遅れている他の学年の選手を精一杯応援する場面も。

学年の枠を超えた学校全体としての一体感に感銘を受ける三日間となります。

十一月大分県内の高校の中で最も長い距離を走る「強歩大会」(本年度五十四回目)が開催されます。一・二年生男子が四十km、女子全員と三年生男子が二十kmの長丁場ですが、足の痛みに耐え、「もうだめ」と弱音を吐きながらも自分の限界ギリギリまで頑張つて走ります。当日は保護者の皆さんによる炊き出しもあり、疲れた生徒を癒してくれます。

学習に、部活動に、忙しい毎日を通う生徒にとって、貴重なアクセントとなるこれらの行事を、今後も地域の方々のご協力をいただきながら大切にしていきたいと思えます。

竹田市の主な行事

| | | |
|------------------|----------------------------|---------|
| 十一月一日(出) | 第六〇回瀧廉太郎を偲ぶ音楽祭 | 竹田市文化会館 |
| 十一月二十九日(出) | お稲荷さんがまいこんだ | 竹田市古町 |
| 十二月十六日(出) | 第一七回クリスマス音楽の夕べ | 竹田商工会館 |
| 十二月二十五日(休) | クリスマスミニコンサート | 瀧廉太郎記念館 |
| 平成二十一年 | | |
| 一月一日(元旦) | 第三十二回竹田元日マラソン大会 | 竹田市 |
| 一月十一日(日) | 竹田市成人式 | 竹田市文化会館 |
| 二月六日(金)～三月十六日(月) | 第十一回岡藩城下町雛まつり | 竹田市商店街 |
| 三月中旬予定 | 竹田高校関東同窓会 春の幹事会 | |
| 六月二十七日(出) | 第二十三回竹田高校関東同窓会 ホテル グランドパレス | |

詩歌・文芸

ふるさとの「荒城の桜を詠む」八首

後藤 紀子(昭28年卒)

ふるさとの荒城に咲く桜ばな

ふるさと荒城さくらさらによし

荒城の月に勝るや岡城の

春高樓のまほろしが桜

荒城にさくら舞ひ散るみことさは

悲しきほどに美しきかな

かずかずの忘れがたきを花にして

荒城の岡に散り敷くさくら

荒城に桜花びら乱舞して

ふと浮かび消ゆ幻影の城廊

荒城をうめつくさんと桜降る

地の上のもののははれあはれや

軋み散る落桜のこゑに夢さめて

あ、岡城址遠きふるさと

岡城址ふるさととする吾なれば

流す涙も桜はなびら



計報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

大貫 寛子様(昭四十九年卒)
 平成十九年十一月 没
 後藤 宏様(昭三十九年卒)
 平成二十年四月十八日 没
 渡瀬 宏様(昭三十年卒)
 平成二十年七月二十二日 没
 西田 昭彦様(昭三十七年卒)
 平成二十年十月九日 没

※何らかの方法により、事務局へ連絡を頂いた方々を掲載しております。

あとがき

※「投稿」をお待ちしています。

この会報は会員皆様方の情報交換の場として編集しています。関東同窓会全員の皆さまの投稿を期待していますがその数が少なく苦労しています。お互いの交流の場としてぜひお活用下さい。

委員一同

投稿内容

- ①クラス会情報
- ②故郷の便り
- ③海外便り
- ④会員の語らい
- ⑤詩歌・文芸
- ⑥会員の催し
- ⑦会員消息
- ⑧その他

連絡先

〒103-0027
 東京都中央区日本橋1-15-1
 日本パーカライジング
 田部 修士 宛(広報委員長)
 TEL 03-33278-4307
 FAX 03-33278-4309
 mailto: stanabe@parker.co.jp